

八重山へ

石垣港 石垣市建設部港湾課



地区全景 令和5年航空写真



美崎町・登野城地区 令和5年航空写真



新港地区 令和5年航空写真



浜崎町地区 令和5年航空写真

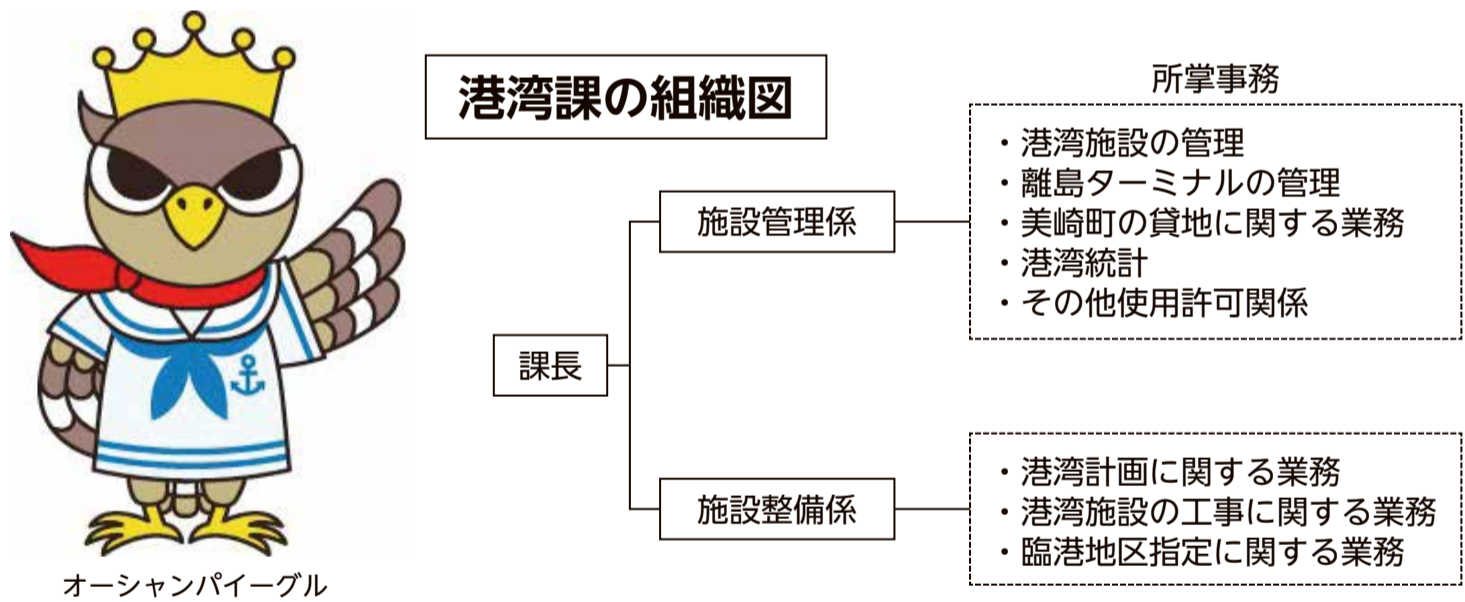


美崎町・登野城地区イメージ



新港地区イメージ

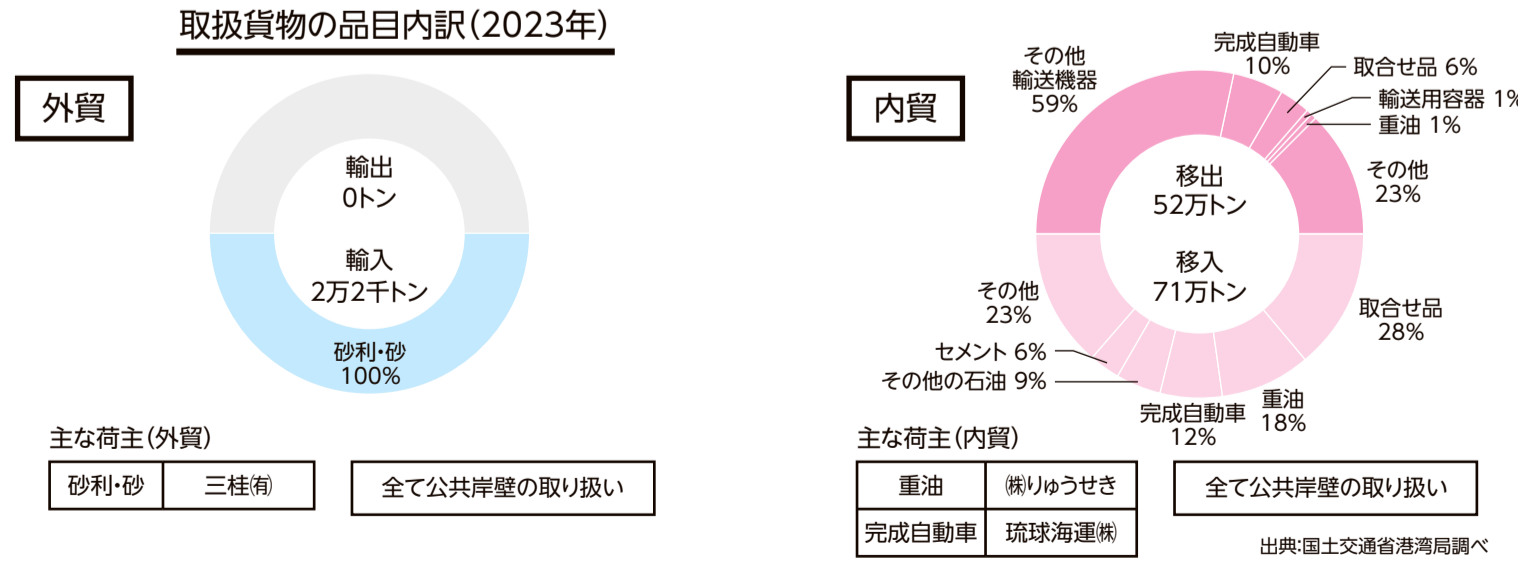
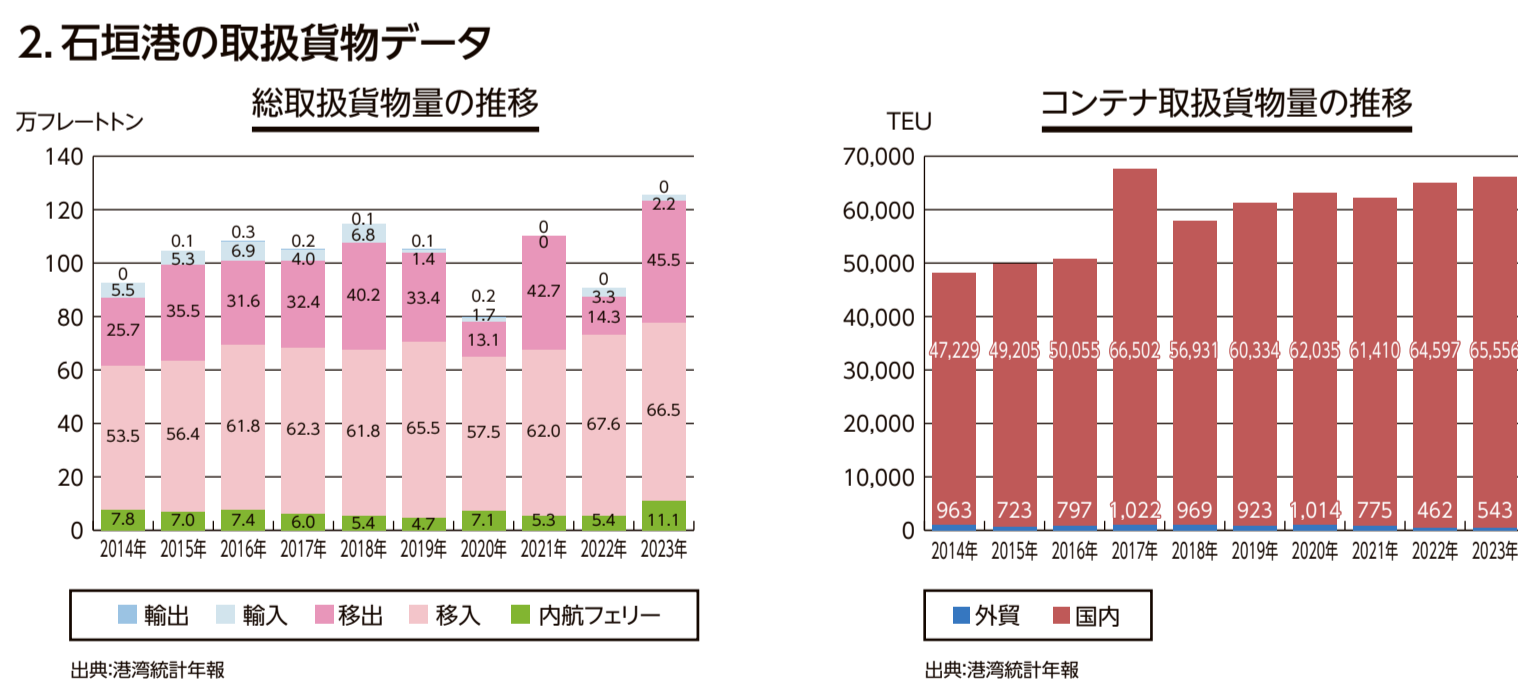
石垣市建設部港湾課の概要



石垣市 建設部 港湾課
〒907-0013 沖縄県石垣市浜崎町3丁目4番地
TEL:0980-82-4046/FAX:0980-83-1784
E-mail:kouwan@city.ishigaki.lg.jp

重要港湾 石垣港 <開港> [沖縄県石垣市]

1. 石垣港の概要
石垣港は、沖縄本島の南西約410km以西に位置する八重山圏域を背後圏とする最南端の重要港湾であり、圏域の物流の約92%を取り扱っている。
本港には、沖縄本島や本土との定期航路が就航し、八重山圏域で消費される生活物資の受け入れや積み替え拠点として、また、周辺離島とのフェリーや高速船が就航し、離島住民や観光客の発着基地として機能している。さらに、台湾から定期的にクルーズ客船が数多く寄港し、八重山圏域の国際観光拠点としての役割も担っている。



3. 石垣港の主な定期航路 (令和6年5月現在)

航路	船社名	便数	航路	船社名	便数
内航RORO船航路			周辺離島高速船航路		
那覇〜宮古〜石垣	琉球海運線、南西海運線	5便/週	竹富、小浜、黒島、西表、鳩間、波照間	南安栄観光、八重山観光フェリー航路	62便/日
その他内航航路			周辺離島フェリー航路		
那覇〜石垣	崎原海運線	2便/週	竹富、小浜、黒島、西表、鳩間、波照間	南安栄観光、八重山観光フェリー航路	30便/週
那覇〜宮古〜石垣	琉球海運線	2便/週	石垣〜与那国	(資)福山海運	2便/週

石垣港の沿革

石垣港は、沖縄本島の南西約410km以西に広がる八重山諸島(有人島11島、無人島20島)の東側石垣島にあり古くから、沖縄本島、日本本土及び台湾諸外国との間の人流、物流の交流拠点として発展してきました。本港は、本土復帰と同時に港湾法に基づき重要港湾に指定され、石垣市が港湾管理者として国直轄事務所(沖縄総合事務局)と連携し、本格的に港湾整備が進められてきました。

- 【復帰以前】**
- 八重山開拓から始まった近代海運
 - 明治 5年(1872)：明治初期に西表島で炭坑が発見されたのを契機に汽船・万年丸が寄港
 - 明治15年(1882)：初の海運株式会社が創設される
 - 明治29年(1896)：那覇の海運会社の出張所が設置され航路を開設
 - 木造棧橋の建設
 - 大正13年(1924)：石垣港に初めて木造棧橋が建設される
 - コンクリートブロック造りへの改築
 - 昭和 8年(1933)：石垣島台風により木造(木造)が被災、復旧の目途立たず
 - 昭和10年(1935)：石垣町(当時)がコンクリート棧橋築造、20までの船舶が接岸可能になる
 - 高まる近代的港湾設備の世論
 - 昭和29年(1954)：琉球政府の重要港湾に指定される
 - 昭和33年(1958)：米国民政府による石垣港新設のための基礎調査を実施
 - 昭和35年(1960)：本格的な港湾施設の建設着手
 - 昭和38年(1963)：新石垣港開港記念式典、八汐丸(676t)が接岸
 - 昭和40年(1965)：米国民政府の援助によって3,000t級岸壁1バース、1,000t級岸壁1バース、500t級岸壁3バースが完成

【復帰以降】
昭和49年6月には取扱貨物量648千tを目標に石垣港港湾計画が策定されました。その後、地域経済の発展、社会情勢の変化等に対応して、昭和54年・60年・平成8年・14年・25年と随時改訂されています。近年では、内航定期貨物船の就航のほか、台湾等からの外航クルーズ客船の寄港も増加しています。

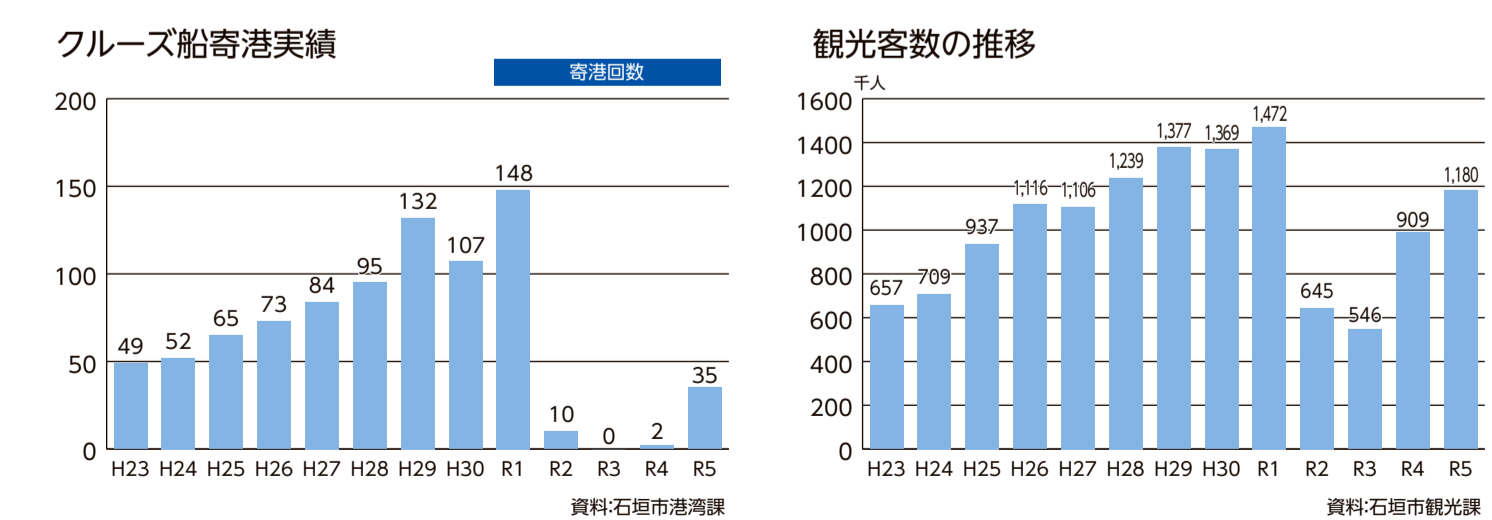
- 昭和47年(1972)：本土復帰と同時に国の重要港湾に指定される
- 昭和49年(1974)：港湾計画策定
- 昭和41年(1966)：美崎町命名
- 昭和52年(1977)：浜崎町命名
- 昭和59年(1984)：1万トン級岸壁(9.0m)供用開始
- 平成 元年(1989)：石垣港ターミナルビル完成
- 平成 2年(1990)：八島町命名
- 平成 5年(1993)：サンゲートブリッジ供用開始
- 平成16年(2004)：耐震岸壁(9.0m)供用開始
- 平成18年(2006)：石垣港離島ターミナル完成
- 平成25年(2013)：港湾計画改訂
- 平成26年(2014)：南ぬ浜町命名
- 令和 6年(2024)：港湾計画改訂(最新)

ユーグレナ石垣港離島ターミナル概要

離島ターミナルは、竹富町の各離島への玄関口として多くの観光客が利用する施設であり、年間の乗降客は200万人を超え、石垣市の施設として最も賑わいを見せている。
当ターミナルは、旧離島棧橋の簡易テントによる狭隘な待合環境の解消を図るため、現在の場所に平成18年度に建設された。前面には浮桟橋を設置し、船舶乗降の利便性向上を図っている。景観を考慮して1階の平屋(一部2階)、一部琉球赤瓦屋根とし、屋上には青い海と竹富島が見える展望デッキ、入居事業者用の駐車場を配置している。また、バリアフリーに配慮して、雨天などの悪天候でも利用可能な屋根付きのエントランス、ピロティ、浮桟橋までの屋根付き歩道も整備されている。
旅客船利用者の利便性を確保し観光拠点の機能強化に資するため、待合ロビーを中心に、船社事務所、発券所、旅行代理店、一般テナントなどが配置されている。

- 【施設規模等】**
- ①構造/鉄筋コンクリート造
 - ②階数/1階(一部2階)
 - ③敷地面積/16,390㎡
 - ④建築面積/5,783㎡
 - ⑤延床面積/5,276㎡
- ★公共部分 1,816㎡/待合ロビー(200席)、エントランスホール、便所
★非公共 2,950㎡/船会社、旅行代理店、テナント、会議室、管理室、電気機械室
★いしがき島 屋上プラットフォーム 510㎡
★屋上駐車場(入居者専用)80台、屋上駐車場250台(有料)
- ◆浮桟橋4基/①延長35m×幅10m ②延長30m×幅10m ③延長30m×幅10m ④延長42m×幅10m
 - ◆屋根付き歩道/延長170m×幅3m

クルーズ客船寄港状況

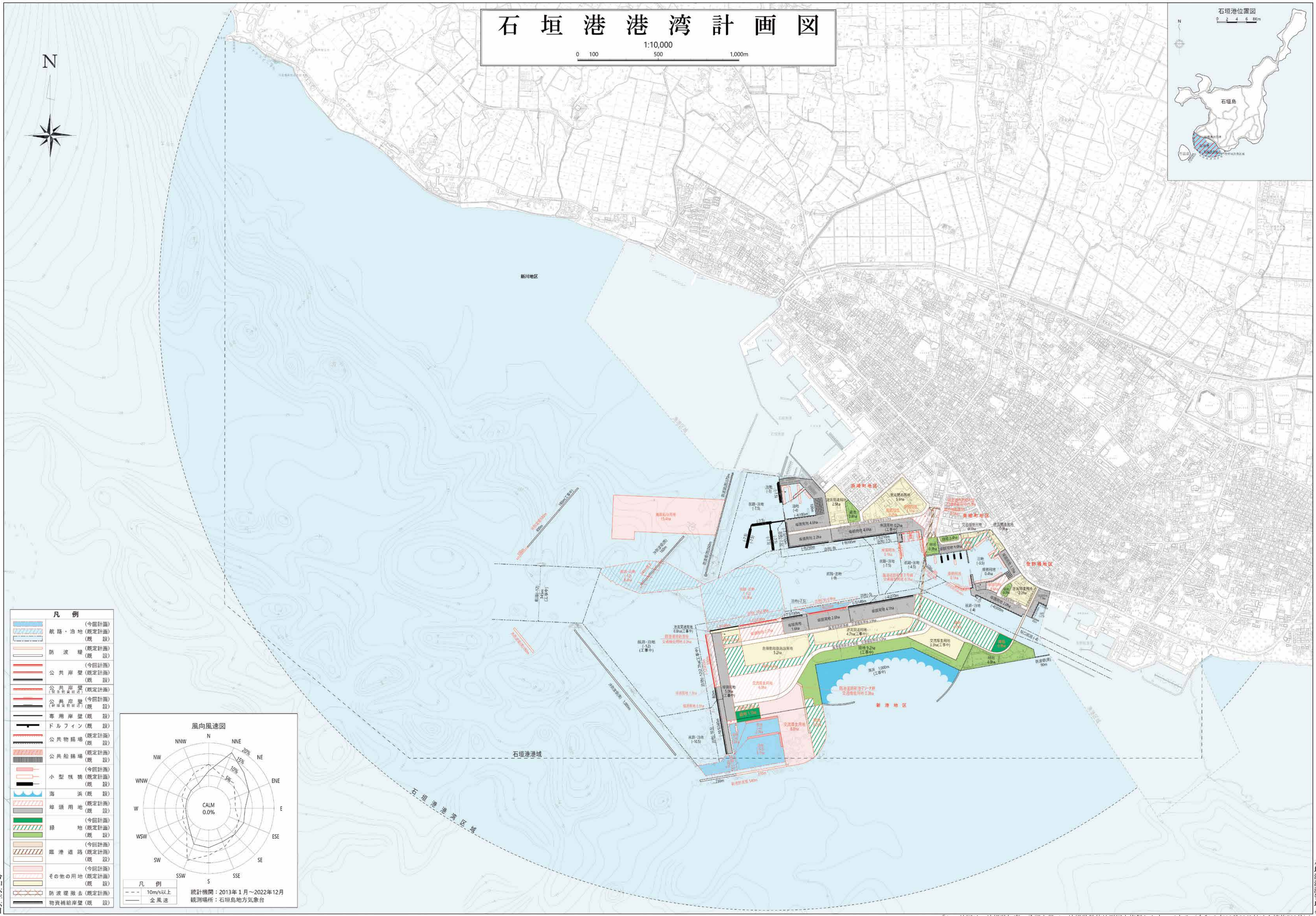
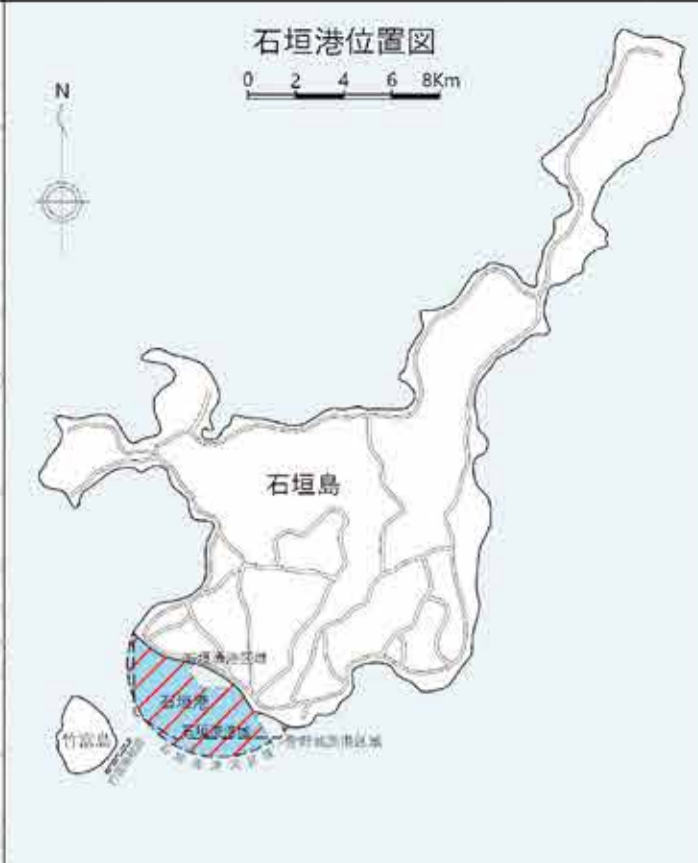


寄港(着岸)した主なクルーズ客船



石垣港港湾計画図

1:10,000
0 100 500 1,000m



- | 凡例 | |
|----|---------------|
| | 航路・泊地 (今回計画) |
| | 航路・泊地 (既定計画) |
| | 防波堤 (既定計画) |
| | 防波堤 (既設) |
| | 公共岸壁 (今回計画) |
| | 公共岸壁 (既定計画) |
| | 公共岸壁 (既設) |
| | 公共岸壁 (兼用岸壁) |
| | 公共岸壁 (今回計画) |
| | 公共岸壁 (既定計画) |
| | 公共岸壁 (既設) |
| | 専用岸壁 (既設) |
| | ドルフィン (既設) |
| | 公共物揚場 (既定計画) |
| | 公共物揚場 (既設) |
| | 公共船揚場 (既定計画) |
| | 公共船揚場 (既設) |
| | 小型桟橋 (今回計画) |
| | 小型桟橋 (既定計画) |
| | 小型桟橋 (既設) |
| | 海浜 (既設) |
| | 埠頭用地 (既定計画) |
| | 埠頭用地 (既設) |
| | 緑地 (今回計画) |
| | 緑地 (既定計画) |
| | 緑地 (既設) |
| | 離港道路 (今回計画) |
| | 離港道路 (既定計画) |
| | 離港道路 (既設) |
| | その他の用地 (今回計画) |
| | その他の用地 (既定計画) |
| | その他の用地 (既設) |
| | 防波堤撤去 (既定計画) |
| | 物資補給岸壁 (既設) |



「この地図は、沖縄県知事の承認を得て、沖縄県数値地形図を複製したものである。(令和6年10月28日付け企情第723号)」